

昨年 7 月、市長から委嘱された委員 21 名により、動物愛護センター整備検討市民委員会は設置されました。当委員会は、本市における動物の愛護と適正な管理を推進する拠点施設として整備する、(仮称) いわき市動物愛護センターが備えるべき機能や規模、設置場所等について計 4 回、延べ 11 時間 30 分の時間をかけ、検討したところであります。

委員会においては、動物の愛護と管理を取り巻く社会情勢や本市が置かれている現状等について理解を深め、整備候補予定地の視察も踏まえ、委員各々の立場や意見を尊重しつつ、熱心に議論しました。設置場所等については、委員の意見が大きく分かれたことから、委員会としての検討結果を導き出すため、苦渋の選択ではありましたが、委員合意のもと多数決により、意見を集約したところであります。

動物愛護センターは、動物の愛護と適正な管理を啓発する拠点であります。飼い犬や飼い猫等の家庭動物は、その命が尽きるまで責任を持って飼養・管理すること、センターに収容された犬や猫の譲渡を促進することが、やむを得ず殺処分される不幸な犬や猫を減らすことに大きく貢献するものとなります。また、動物とのふれあいによりぬくもりを感じ、命の尊さを学び、思いやりのある心を育てることは、子どもの健全な成長に大きく寄与することにもなります。

結びに、この報告を基に、地元住民の皆様の御理解のもと、動物愛護センターが円滑に整備され、市民に開かれた愛される施設として、人と動物とが共生する社会の実現につながることを期待します。

1 施設の機能及び構成について

「動物の愛護及び管理に関する法律」において規定する、動物の虐待及び遺棄の防止、動物の適正な取扱い、その他動物の健康及び安全の保持等、動物を愛護する気風を招来し、生命尊重、友愛及び平和の情操の涵養に資する事業等を行うとともに、動物による人の生命、身体及び財産に対する侵害、生活環境を保全するうえでの支障を防止するなど、人と動物とが共生する社会の実現を目指す、動物の愛護と管理の拠点施設として整備する。

委員の総意として、次に掲げる機能等を担い、本市における動物の愛護及び適正な管理を推進するべきと考えます。

(1) 施設の機能

ア 犬・猫の適正な飼い方を啓発する機能

- 飼い主の責務やマナーの喚起
 - ・ 終生飼養やフンの持ち帰り等
- 犬や猫の正しい飼い方や接し方の普及啓発
 - ・ しつけ方教室や責任ある餌のやり方
- ペットショップ等の動物取扱業者への指導と連携した啓発
 - ・ 動物取扱責任者研修会、連携した啓発等

イ 犬・猫の殺処分を極力減らす機能

- 収容や引取りの頭数を減らす
 - ・ 終生飼養や適正な飼養と管理等
- 譲渡の促進
 - ・ 収容犬猫の適正管理やしつけの助言等

ウ 犬・猫とのふれあいの場を提供する機能

- 犬や猫とふれあえる場の提供
 - ・ 動物のぬくもりを感じる、命の大切さを学ぶ
- 学校や高齢者・障がい者施設等と連携した教育、癒しの場の提供
 - ・ 思いやりの心を育てる、アニマルセラピー等

エ 放浪犬等を保護収容・管理する機能

- 収容動物の健康管理と必要な治療の提供
- 犬・猫に極力苦痛を与えない方法による殺処分

オ 狂犬病等の感染症予防対策機能

- 狂犬病予防注射の実施率向上に向けた普及啓発
- 人獣共通感染症に係る情報提供

カ 動物関係ボランティア、団体との連携

- 動物愛護管理ボランティアの育成
- 獣医師会や動物愛護団体との連携

キ 災害時における対応機能

- 放浪動物（犬猫等）等の保護収容

(2) 施設の構成

施設機能を実現するため、必要となる施設は次のとおりとなります。

ア 収容直後の犬・猫を管理する部門（保護管理部門）

保護収容した犬や猫の健康状態を確認後、疾病の有無や人への順化等を観察し、譲渡適性を判断する。

- 受入室

保護した犬猫のトリアージを行う。状況に応じて車寄せを付帯する。

- 健康管理室

収容直後に診察、必要に応じて手当て等の処置を行う。経過観察時における処置や手当て等も行う。

- 犬猫飼育室

犬や猫を収容し、健康状態や人への順化の経過を観察する。

- 隔離室

感染症等に罹患している犬や猫を隔離し、経過観察や処置等を行う。

- 処分・焼却室

人への順化が見込めない状態、治癒の見込みがない重篤な状態、交通事故等により瀕死の状態にある犬や猫の安楽殺及び焼却、収容中に死亡してしまった犬猫の焼却を行う。

イ 譲渡適性があると判断した犬・猫を管理する部門（愛護・啓発部門）

経過観察後、譲渡適性があると判断した犬や猫を譲渡する。また、状況に応じ、人とのふれあいも行う。

- 犬猫飼育室

譲渡候補の犬や猫を飼育する。

- グルーミング室

犬等のシャンプーやカットを行い、魅力度の向上と健康管理を行う。

- 譲渡室

犬や猫の新たな飼い主への譲渡に当たり、飼い主と動物の相性確認等を行う。また、犬や猫とのふれあいを行う場ともなる。

ウ 動物の適正管理と愛護啓発を行う部門（啓発部門）

動物愛護管理法や狂犬病予防法等に基づき、適正な動物の管理と愛護の普及啓発を行う。

○ 事務室

動物愛護管理施策を推進する事務スペース。動物に関する各種相談や申請等窓口業務も行う。施設運営ボランティアとの協働を念頭にしたものとする。

○ 研修室

各種講習会や研修会を行う。

エ 動物を収容・飼育するうえで必要なもの

○ 犬運動場

収容している犬の健康を管理するための運動スペース。人と犬とのふれあいの場としても活用する。

○ 飼料室

エサの保管や調整等を行う。

○ ボランティア室

動物の管理等を行う運営ボランティアの作業等のスペース。事務室との密な連携を念頭に置いたものとする。

○ 倉庫

ケージや捕獲箱等の資器材を保管する。

オ 施設管理上必要なもの

○ おやこ室 授乳やオムツ交換等を行う。

○ 便所 男女別、多目的

○ エントランス 情報発信コーナー等を付帯

○ 更衣・シャワー室

○ 委託業者等事務室

○ 風除室

○ 電気・機械室

○ 衛生設備（上下水道等）

○ 駐車場 等

2 施設の規模について

委員の総意として、収容できる動物の頭数は、成犬・成猫換算で、犬 26 頭、猫 30 匹程度とし、延床面積は 440 m²程度を目安とした施設整備が妥当であると考えます。

なお、総合保健福祉センターに整備されている施設や設備を有効に活用するとともに、今後進める設計等の中で、適正な施設規模や事業費の縮減に努めるべきと考えます。

3 施設の設置場所について

設置場所については、総合保健福祉センター敷地を整備候補地とするとの結論に至りましたが、市においては、地元住民団体に丁寧に説明して理解を得るなど、付帯意見に配慮して事業を進めるべきと考えます。

整備形態については、すべての機能を一体的に整備するのか、既存の犬管理所の活用を念頭に分離整備するのか、今後、市が事業を進めていく中で慎重に検討し、柔軟に対応する必要があると考えます。

(1) 選定理由

総合保健福祉センターは様々な目的で多くの市民が来場する公共施設であります。当センターは、動物愛護センターの最も重要な機能である動物の愛護と適正な飼養管理について、動物に興味がない市民にも広く啓発できる最良の立地であるばかりでなく、全市的な公衆衛生を所掌する保健所が存し、エックス線設備が付帯した処置室をはじめ、動物収容室、会議室、事務室及び駐車場等が既に整備されております。動物愛護センターを整備するに当たり、それらを有効に活用することにより、整備コストも縮減することができます。

(2) 付帯意見

設置場所については、ポリテクセンター跡地に整備すべきとの意見と、総合保健福祉センターの敷地内（犬管理所の活用含む）に整備すべきとの意見に分かれました。意見が出尽くしても両者の意見に歩み寄りは見られず、多数決を求める意見が多かったことから、苦渋の選択ではありましたが、委員合意のもと多数決により、意見を集約したところであります。

(ポリテクセンター跡地を支持する主な意見)

ア 総合保健福祉センター周辺は、内郷地区の中心地であり未知の発展性がある。地区では、内郷支所機能の移転を思い描いているため、動物愛護センターの整備は、その妨げとなる。

イ ポリテクセンター跡地は、敷地が広々としており周辺に住家もなく、将来的に増築可能なスペースもとれるが、総合保健福祉センター周辺は市営住宅等の住家が多く、動物の臭いや鳴き声による生活環境への影響が大きい。

ウ 概算整備費は設計前にしても高額すぎる。しっかりとした数字を示せば、候補地の選定についての意見は変わるのではないか。

(参考：設置場所についての委員支持数)

① ポリテクセンター跡地 8名

ア 出席委員 7名

イ 欠席委員 1名

② 総合保健福祉センター敷地 13名

ア 出席委員 11名

イ 欠席委員 2名

※ 第4回委員会欠席者の意思確認は、後日、文書で行った。